

日常診療を変えるエビデンスを皆様へ。

日頃より「今日の臨床サポート」をご愛顧いただき、ありがとうございます。

2024年10月に改訂された臨床レビューの中から、日常診療に大きく影響を与えるようなエビデンスをご紹介します。

<p>下肢末梢動脈疾患 (LEAD)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、改訂を行った。 近年、包括的高度慢性下肢虚血 (CLTI) に対して外科的バイパス術と血管内治療の2つの治療法を比較するRCTが2つ (BEST-CLI、BASIL-2試験) 報告された。試験結果は相反するものであった。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ BEST-CLI試験において、予測される生命予後は2年以上で良好な自家静脈を有するCLTI症例では、外科的バイパス術治療が血管内治療に比べて長期成績は良好である結果が示された (Farber A, et al. N Engl J Med. 2022 Dec 22;387(25):2305-2316.)。実臨床における血行再建術決定において自家静脈評価は重要である。 ▶ BASIL-2RCT試験では、BEST-CLIより平均年齢は高く膝下動脈病変に対して血行再建術を必要とするCLTIに対して施行した。外科的バイパス術と比較して血管内治療が良好な長期成績であった (Bradbury et al. Lancet. 2023 May 27;401(10390):1798-1809.)。 膝下動脈領域の治療に関して、LIFE-BTK試験により、通常型バルーン治療と比較し生体吸収性薬剤溶出性ステント (Esprit™drug-eluting resorbable scaffold [DRS]) の再狭窄率は有意に低いことが報告された (Varcoe RL, et al. N Engl J Med. 2024 Jan 4;390(1):9-19.)。今後本邦における臨床使用の可能性がある。 欧州血管外科学会発刊の『血管疾患に対する抗血栓療法2023ガイドライン (Twine CP, et al. Eur J Vasc Endovasc Surg. 2023 May;65(5):627-689.)』を参照し加筆・修正した。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 血栓リスクが高く、出血性リスクが低い症候性LEAD症例に対し、アスピリン100 mgに加えリバロキサバン2.5 mg1日2回投与を考慮することが推奨された。
<p>グルココルチコイド (ステロイド) の副作用</p>	<ul style="list-style-type: none"> 『グルココルチコイド誘発性骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン2023』に基づき改訂を行った。また、『日本麻酔科学会医薬品ガイドライン』を参考に、ステロイドカバーについて具体例を加筆した。 副作用マネジメントの基本は、予防と早期発見・早期対処である。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 特にグルココルチコイド中等量以上では、早期からチェックする必要のある副作用、時間が経ってから現れやすい副作用がある。 ▶ 膠原病急性期では、原病による皮疹と治療薬 (特にST合剤等) による皮疹の鑑別が必要になることがある。原病による皮疹では、特に皮疹の出現部位 (SLEでは顔面の頬部・耳介・手指等の紅斑、皮膚筋炎であれば関節伸側部のゴットロン皮疹や肩から首の紅斑等) が病気に特徴的であることが多いが、薬剤による皮疹では全身を含めて広範囲に皮疹が出現することが多い。また、原病のその他の指標が落ち着いている場合は薬剤による皮疹がより考えやすく、薬剤を始めて数日から10日程度であれば薬剤による皮疹が疑わしくなる。確定するには1度疑わしい薬剤を中止して数日経過を見る必要がある。 『薬剤関連顎骨壊死の病態と管理：顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2023』を参照し、骨粗鬆症治療時の注意点について加筆した。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ アメリカリウマチ学会からも2022年にグルココルチコイド誘発性骨粗鬆症の予防と治療のガイドラインが発表されている。 (Humphrey MB, et al. Arthritis Rheumatol. 2023 Dec;75(12):2088-2102.) 同ガイドラインでは、ステロイド服用で調整したFRAXスコアを用いることが特徴である。

『今日の臨床サポート』とは

エビデンスに基づく日本語によるリファレンスツールです。約1,430の疾患・症状概要、診断・治療方針などをご覧になることができます。ジェネリックを含む薬剤情報、疾患・症状の患者向け説明資料、インターネット版ではPubMedへのリンクもご用意しています。

QRコードまたはURLからアクセスできます。イントラ版をご契約の施設では、院内端末からログインなしでご覧になることができます。



<https://clinicalsup.jp/jpoc/>

ログインには、①ユーザー名、②パスワード、③施設コードが必要です。管理者の方にご確認ください。

最新エビデンスをタイムリーに受け取れます。ご登録はこちらから。

